マイボイス音素の基礎の基礎

マイボイスは

「かな」を発音記号とみなし、ふりがなを本人の「あいう」で連続再生するものです。

ふりがなは

「あ、い、う、、、か、き、く、、、が、ぎ、、きゃ、きゅ、、」という117音素を基本とします。

ふりがなには種類があります。

「出だしの1文字目のふりがな」（A）と「2文字目以降のふりがな」（N）と

「単語末や文末などの区切りの直前のふりがな」（E）です。

Aはゆっくり低めの音です。

Nは前の音に続いて音程が高くなっていく音です。

Eはふつう若干詰まる言い切りの感じになります。

また、日本語のアクセントは音程の「高低」変化点にあります。

「アクセント直前の高い音」（H）と「アクセントから後の低い音」（L）の2種類を

Nの音程を上げ下げして作ります。

Hは生の声の録音で採取するのは難しいため、Nの音程を上げて作るほうがなめらかです。

LはNを下げてもいいのですが、Aを下げても、あるいはAをそのまま使ったほうが自然な場合があります。

Eは、生録の声で不自然に聞こえる場合も多々あります。その場合は、AやNからコピーや音程の上げ下げで作ると落ち着く場合が多いです。

生録では

日本語の「上（うえ）」の発音での、音程の低い・高いがマイボイスのAとNに使えること

がわかってきました。

※以前は、音程の低い・高いをLとHに使い、Lの音程を上げてA、Hの音程を下げてNを作っていました。ですが、LHではなくANに使った方が自然さが増します。

これに区切りの前のEと、疑問文を表す語尾の「？」の音Qは、音程以外の要素で別なものとして生録でそろえます。

例）「人間学」＝「にんげ‘んがく」＝「にA」「んN」「げH」「んL」「がL」「くE」

どんなストーリーも作れる「パラパラ漫画」を目指す！

マイボイスの音素をパラパラ漫画の1枚の絵だとすると、この絵を自由に並べ替えてどんなストーリーのパラパラ漫画が作れるような絵のような声の収録を目指してきました。

「並び替え」ができる声の録音方法

1音程がついていない平板な発声で録音

例1　平板意識して「あいうえお」「かきくけこ」…、しかしこれでは語尾の「お」「こ」…が異質になります。

そこで、ダミーの1音を加えて、「あいうえおあ」「かきくけこか」…、と録音します。

例2　例1では「母音変動」により「あいうえおあ」「かきくけこか」…がそれぞれ「単語」としてのアクセントがついてしまう傾向があります。

　　　そこで、母音をそろえて「あまがあ」「いみぎい」「うむぐう」「えめげえ」…と発音して「あ」「ま」「が」「い」「み」「ぎ」…を収録します。（語尾はダミー）

例3　例1、例2では出だしの1音が語頭音としての要素（低く始まる、子音部分が長め（特にサ行の摩擦音など）などが入ってしまうことがあります。

　　　実際には、語頭の影響というより、「意識する」と全部が語頭音のようになります。

　　　　○これがうまくいく人の場合は、非常に落ち着いていて明瞭なマイボイスが作れます。

音程がついていて語頭・語尾の影響のない発声で録音

例1　「上」の音程で「あい」「いう」「うえ」「えお」「おあ」…を録音するのは基本の基なので、出だしにダミーとしての「あい」をつけて、

　　　「あい　あいい」、「いう　いうう」、「うえ　うええ」…と録音し、後ろの「あいい」を使います。

　　　この場合、出だしの「あい」の「あ」は本当の語頭で「あいい」の「あ」と違う人もいます。また、出だしの「あい」の「い」と「あいい」の中間の「い」が違う人もいます。こういった場合は、出だしの「あい」も活用し、これをANに使い、続く「あいい」をLHEに使います。

例2　「上」の音程を意識するためにダミーの「上」を語頭につけて、「うえ　あいい」「うえ　いうう」…のように録音する。

　　　これで「上」に続く「あいい」をANEに配置し、HとLはNから自動生成、もしくはHはLから、LはAから自動生成にする。

例3　人によっては、「うえ　あいい」を一呼吸で読み上げるのがきつい場合があります。その場合は、出だしの「上」を省く（意識はしてもらう）、もしくは、心の中で読む、ことで代用します。

例4　人によっては、言葉の出だしが不安定な人がいます。この場合は、「うえ　あいい」もしくは「あい　あいい」で録音し、出だしの「うえ」「あい」をダミーとします。

例5　語尾の音がうまく出せない人がいます（語尾なのに間延びしたり）。この場合は、「あいい」をANEに配置はするものの、Eを一括不使用にして、Nから（人によってはAから）自動生成にします（2019.7新機能）。

例6　生声のANEやANHLEのそれぞれのA,N,H,L,Eごとに長さが不揃いになる場合があります。この時は、「単音素タブ」を開き、「音長は音素データそのまま」にチェックを入れ、その下の「音素別伸縮度」で「％」を指定することで長さの不均衡を調整できます。主にEの短めを改善するのに使っています（2019.7新機能）。